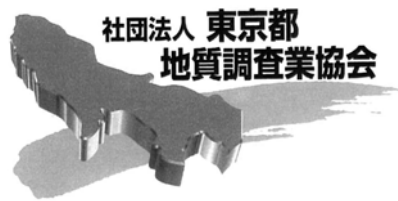


東地協ニュース 2007.春 第10号



広報活動について

広報委員長 中込 実敏

私が、東京都地質調査業協会の広報委員になり早いもので12年の月日が経ちました。その間、当協会も任意団体から社団法人となりその活動を広めて来ているところであります。私が初めて広報活動に参加したのは、平成7年度の前期からですが一企業の営業とは勝手が違う事もあって、先輩広報委員の後ろにくっ付きひたすら資料持ちに徹していた事が昨日の事のように思い出されます。また、当時の協会は、任意団体でしたので誠意ある対応をしていただけない事もありました。それでも毎年2回、技術委員が東京をテーマに一生懸命作成した技術ノート等の資料を配布する事によって顔を覚えてもらえるようになると、『今年も来ました！』の挨拶から始まり若干ですが双方の要望等の話も出来るようになりました。継続することにより状況が変わる、改めて大切な事だと思いました。

平成16年4月からは、広報委員長として協会活動を行って来ておりますが、その間、世の中の流れが官から民へと大きく変化してきました、その中で協会としての広報活動も従来の活動に加え直接一般都民を対象とした活動をこれまで以上に実施していく必要があると思います。

例えば、地質調査についての普及啓発事業では、すでに実施して来ておりますが、更に多くの市区町村での防災講演会の実施、また技術ノートを全都立高校への配布等出来るだけ直接都民の手に届く場所に配布するようにして行きたいと思っております。次に、地質調査についての情報の提供に関する事業では、東京都と共催して毎年実施している防災展において来場者のご希望地の地盤状況を提供する事は、協会として社会貢献的な事業としても非常に有意義な事でこれからも積極的に協力して行きたいと思っております。また出来ればテレビ・ラジオ・新聞等による宣伝および東地協ニュース第3号、第4号にも触れられているようにHPの活用も非常に有効な手段だと思っておりますので是非検討して行きたいと思っております。東京都地質調査業協会をより社会的に認知していただく為にも、都民の皆様により多くの広報活動を実施して参りたいと思っております。

最後に、業界を取巻く環境はまだまだ厳しい状況ですが、会員会社におかれましては、協会の各委員会活動にご理解いただき是非とも参加して頂くようお願い申し上げます。

会議報告等

1. 19年3月2日 理事会・全体委員会

- (1) 第18回通常総会について
- (2) 平成18年度決算
- (3) 平成19年度事業と予算の方針について
- (4) 表彰者規程の制定について

2. 第18回通常総会(予算と事業計画), 講演会, 懇親会

去る3月20日(火)、測量地質健保会館7階大会議室において第18回通常総会が開催された。当日は会員数44社に対し、38社が出席(うち委任状提出10社)。議事の概要は以下の通り。全議案が承認された。

- (1) 平成19年度事業計画(案)承認の件
- (2) 平成19年度収支予算(案)承認の件
 - (1), (2)ともに異議無く承認された。
- (3) 役員の一部改選の件

理事の鳥塚明氏及び神谷仁氏の辞任に伴う役員の補充について、議長より出席会員へ議長一任を取り付け、以下の方が就任された。(任期：平成20年3月31日)

理事 佐藤 剛氏
日本物理探査(株)関東支店 支店長

理事 榎本 光孝氏
㈱インターナショナル・サーボ・データ 代表取締役

なお、総会終了後、国土交通省 関東地方整備局 東京第二営繕事務所より講師をお招きし、官公庁における天然ガス対策について貴重なご講演を頂いた。

演題：「官公庁における天然ガス対策について」

講師： 関東地方整備局 東京第二営繕事務所
事務所長 吉田 弘氏
技術課調査係長 宮下 幸男氏

17時からは会場を銀座ライオン池袋西口店に移し、懇親会を開催した。

<第18回通常総会>



<懇親会>



委員会報告

【 総務委員会 】

1月総務委員会 平成19年1月30日

- (1) 平成18年12月収支報告
- (2) 平成19年度事業計画と予算について
- (3) 東地協ニュース作成マニュアル(案)について
- (4) 社団法人化10周年記念事業準備について
- (5) 総務委員の増員の件
 <新任> 津川 明宏 氏 ((株)大東地質)

2月総務委員会 平成19年2月28日

- (1) 平成19年1月収支報告
- (2) 東地協ニュース第10号について
- (3) 表彰者規程について
- (4) 第18回通常総会について(3月20日)

【 広報委員会 】

平成18年度 第4回広報委員会 平成19年3月23日

- (1) 各担当地区の広報活動報告
- (2) 19年度の広報活動について
- (3) 委員の辞任・交替について

<新任> 阿部 信 氏 ((株)東建ジオテック)
 神馬 誠 氏 (基礎地盤コンサルタンツ(株))
 <辞任> 中井 泰弘 氏 ((株)東建ジオテック)
 天神 悟 氏 (基礎地盤コンサルタンツ(株))
 富塚 時枝 氏 (総合地質調査(株))
 村岡 正明 氏 (中央建鉄(株))
 田部 真吾 氏 (住鉱コンサルタント(株))

【 技術委員会 】

委員の辞任・交替について

<新任> 細根 清治 氏 ((株)東建ジオテック)
 <辞任> 前原 俊春 氏 (応用地質(株))
 佐久間 春之 氏 ((株)東建ジオテック)

アンケート結果報告

昨年末、会員の皆様に回答ご協力いただきました住宅性能保証制度に伴う「地盤保証制度」についてのアンケートの集計結果についてご報告いたします。

集計結果より、多くの会員企業が地盤保証制度に関心を持たれています。協会としましては、今後、制度を利用(加盟)されている企業を中心に、そのメリット等新しい情報を会員企業へ発信を行う予定にしております。

「地盤保証制度」についてのアンケート 集計結果

【2006.12.21 現在 回答数 30社(会員数45社)】

「地盤保証制度」を利用(加盟)されていますか。

- | | |
|----------|-----|
| 1) している | 4社 |
| 2) していない | 26社 |

上記で「していない」と回答された方

「地盤保証制度」のことはご存知でしたか。

- | | |
|-----------|-----|
| 1) 知っている | 20社 |
| 2) 知らなかった | 5社 |
| 3) 無回答 | 1社 |

「地盤保証制度」に関心はありますか。

- | | |
|----------|-----|
| 1) 関心がある | 16社 |
| 2) 関心が無い | 7社 |
| 3) 無回答 | 3社 |

上記で「関心がある」と回答された方

・ 貴社では「地盤保証制度」への参画を検討しますか。

- | | |
|------------------|-----|
| 1) すぐに検討する | 1社 |
| 2) 様子を見る | 11社 |
| 3) 協会として検討した方が良い | 4社 |
| 4) 検討しない | 0社 |

トピックス(協会行事紹介)

講演会「官公庁の天然ガス対策について」



[講師]
東京第二営繕事務所
事務所長 吉田 弘氏



[講師]
東京第二営繕事務所
調査係長 宮下幸男氏

～ 講演会雑感 ～

3月20日、通常総会后、国土交通省 関東地方整備局 東京第二営繕事務所より講師をお招きし、天然ガス対策に関する講演をいただき興味深く拝聴しました。

演題：「官公庁における天然ガス対策について」

講師：関東地方整備局 東京第二営繕事務所

事務所長 吉田 弘氏

技術課調査係長 宮下幸男氏

詳細な内容は下記を参照して頂きたいと思います。
まさに東京第二営繕のオリジナルのネタであり、他ではやっていない講演内容でした。

東京第二営繕事務所ホームページ

<http://www.ktr.mlit.go.jp/tokyo2ez/>

(天然ガス対策ガイドブック)

または

関東地質調査業協会「技術ニュース 72」

ここでは、講演を聴いての私の雑感を記したいと思います。

十数年前、茨城県稲敷郡川内町地内で、800mmの鋼管杭の押込み試験(試験荷重 15MN)を実施した時のことです。

試験杭はGL-65mの支持層(砂礫層)まで中掘り工法で施工する計画でGL-52mまで沈設したところ、杭の周辺から突然大量のガスが噴出してきて5本目の杭を溶接することができなくなってしまいました。

中掘り工法杭は放置時間が長引くと、杭の周面摩擦力が回復して押せども引けども動かなくなってしまう場合があります。

至急関係者が集まって協議しましたが、中々良い案ができません。私も地質屋としての見解を求められましたが、当時、地下ガス噴出の事例など江東区夢の島程度しか知りませんでしたから「部分的に溜まっているだけでしょうから、時間がたてば弱まるんじゃないでしょうか」などと、無責任なことをいってしまった記憶があります。

幸いにも直近に民家はなく、換気のよい露天なので、爆発や火災の危険性は少ないと判断できました。

そこで出した結論は、以下のようなものでした。

時間がたてばガスの噴出が弱まる可能性もある。
大型扇風機 2機を至急手配し、ガスを吹き飛ばしながら継手溶接を行う準備をする。

薄鉄板で、ひさしをつくり、杭の継手の 30cm 程度のところに仮止めして、火花が飛び散るのを抑える。

消火器を数台準備しておいたのはもちろんです。

ガスの噴出は、3~4 時間が経過しても一向に衰える気配がありません。

結局、の対策を施し、火花がひさしの下に散らないように細心の注意を払いながらどうにか溶接を終えた次第でした。

中掘り圧入を再開しましたが、杭が N 値>50 の層を貫通して固結シルト層に達したところで、まもなくガスの噴出は止り、やっと砂礫層まで杭を埋め込むことができたこと記憶しています。

後に付近の住民からきいた話ですが、近傍に昔、天然ガスの採取工場があったとのこと。

柱状図を確認したところ、0-43m 沖積シルト層、43-64m 洪積砂シルト互層、64-69m 砂礫層、69m 以深砂層(上総層群)でした。

ガスは上総層群から上部の洪積砂シルト互層まで上がってきてそこに溜まっていたものだと考えられます。

当時、無溶接継手はすでに実用化されていたはずですが、この現場では使用していませんでした。

今後、杭設計者、杭打ち業者、杭の支持力試験業者などを対象とした天然ガスに関する勉強会を開催していく必要性を痛感した次第です。

(副会長 金道 繁紀)



**「施設整備・管理のための
天然ガス対策ガイドブック」**

発行日：平成 19 年 3 月 1 日
 編集：営繕工事における天然ガス対応のための関係官公庁連絡会議
 発行：東京第二営繕事務所
 東京第二営繕事務所ホームページにて公開中

会員コーナー

会員よりお寄せいただいた記事や写真、ご意見等を掲載する新コーナーです。どんなテーマでも結構ですので、ご寄稿お待ちしております。なお、採用させていただいた方には気持ちばかりですが図書カードを差し上げます。



『おもいで』

空気・太陽・水・バナナ 戦後まもない頃の標語大賞。
 食物として当時バナナは一番人気 貴重な存在。
 これをもじって空気・太陽・水・地盤
 業務案内作成にあたり最後のページに記載させて頂きました。
 地震大国日本として地盤安定が何よりも訴えた。
 次第 空気の良いところ 陽あたりの良いところ
 おいしい水に恵まれ、ばまさに理想郷
 戦後六十余年の飽食時代
 病人にしか与えられなかったあのバナナ今くさらずほど
 隔世の感さえあります 昭和ひとけた生まれ
 おそまき乍ら本年二月を以って卒業(退職)いたしました。
 余生の始まり何時までも元気でいたい
 そんな自分へ贈るさ、やかな標語大賞・・・
 野球・カメラ・旅・酒少々

前川 勝男 (元 (株)セントラルソイル)

- * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

この度ご寄稿頂きました前川勝男氏には、永年にわたり広報委員として協会活動に直接ご協力いただき、又、東京協会の業務案内作成の際には、ご趣味でもある写真を数多く提供して下さいました。この場をお借りして、協会関係者一同、心よりお礼申し上げますとともに、今後のさらなるご活躍をお祈り致します。

会員(正会員・賛助会員)動静

(1) 住所の変更

- ・ (株)アドメディア (賛助会員)
[新住所]
〒101-0047 千代田区内神田3 - 2 - 12
TEL 03-5297-1051
FAX 03-5297-0100
- ・ (株)田中土質基礎研究所 (賛助会員)
[新住所]
〒182-0024 調布市布田3 - 28 - 5
TEL 042-490-8260
FAX 042-490-8261
- ・ モノレール網機(有)関東支店 (賛助会員)
[新住所]
〒153-0052 目黒区祐天寺2 - 15 - 17
祐天寺サンタビル
TEL 03-3719-3110
FAX 03-5913-8846

(2) 代表者の変更

- ・ (株)日さく 東京営業所
代表者) [新] 営業所長 高橋 健二
[旧] 営業所長 新井 正行
- ・ 住鉱コンサルタント(株)東京支店
代表者) [新] 東京支店長 滝川 昭
[旧] 東京支店長 渡部 春夫
- ・ (株)東建ジオテック 東京支店
代表者) [新] 東京支店長 佐々木 誠二
[旧] 東京支店長 中井 泰弘

行事日程

| 日程 | 行事名・内容等 |
|----------|-------------------------------|
| 5月18日(金) | 第19回通常総会
於：測量地質健保会館 |



・ 編集後記 ・

暖冬…この冬は、全国各地で平均気温を上回る暖かい日が大変多く、異常ともいえる記録的な気候となりました。降雪量も当然少なく、東京でも観測史上初の降雪ゼロかと思われましたが、最後の最後で最も遅い初雪を記録しました。

冬は暖かく、夏は涼しく…身体的にはとても心地よく、生活面だけを単純に考えれば、一年中初夏のような気候がとても過ごし易いと思うのですが…しかしながら、私たち日本人は四季を感じて育ち、そして生活を営み、社会環境もそれに合わせて築き上げられてきました。従いまして、夏は暑く、冬は寒くないと多方面に様々な影響を及ぼしてしまいます。四季折々の旬の食物や紅葉などの景観、さらには寒い冬の日に入る温泉、暑い夏の日に飲むビールといった厳しい環境に耐えてこそその特別な喜びを得られることもまた然りであります。

今回の暖冬が地球温暖化と関連があるのかはわかりませんが、いろいろな面で環境が微妙に変化しているのは間違いないようです。我が業界も、日本の四季を守るために、今こそいろいろな知恵を出さなければいけないときかもしれません。



東地協ニュース 2007.春 第10号

発行・編集 (社)東京都地質調査業協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-8 (内神田クレストビル)

TEL 03-3252-2963 FAX 03-3252-2971

<http://www.tokyo-geo.or.jp/> E-Mail info@tokyo-geo.or.jp

